

# 学校一礼

～自分を・人を・場を

『考える子』～

7月22日から始まった夏休みが終わりました。子どもたちは、夏休みをどう過ごしていたのでしょうか。多分、多くの皆さんにとって、今年の夏は以下の三つが強い印象を残したことと思います。

## 東京オリンピック

開催そのものの賛否が割れた東京オリンピックでしたが、いざ開催されたらやはり惹きつけられました。自国開催で時差がないことと「お家時間」が増えたことで、これまでになくテレビ観戦をし、毎日一回は泣いていました。私は、選手が発する言葉が好きで、インタビューや試合後の特別番組等での発言に注目します。多くの選手が共通して口にしていたのが、やはり「あきらめない」と「ありがとう」の心でした。伊倉小三つの「あ」のうちの二つに一致しています。たくさんの言葉に感動があったのですが、中でも私の心に響いたのは柔道男子78kg級を制した大野翔平選手の言葉でした。金メダルを獲得後、インタビューから「日本中のファンに報告を」と振られたときの大野選手の言葉です。

「われわれの姿を見て、何か心が動く瞬間があれば本当に光栄です。」

この言葉から、大野選手が競技に向き合う上での心の立ち位置が分かります。鍛錬を通して人間力を磨き上げた一流のアスリートの言葉だと思いました。また、競技そのものを見て私の心を打ったのは、陸上競技女子1500mの田中希実選手と男子3000m障害の三浦龍司選手の“圧巻の走り”、そして男子マラソンの大迫傑選手の“覚悟の走り”でした。共通している点は、メダリストではないことです。しかし、日本人と他国の選手との間で大きな開きのあった種目で、果敢に挑む姿は美しいと思いましたし、未来の可能性を感じさせてくれました。

今度はパラリンピック。自己の特性と向き合い、様々な工夫と努力を重ね、持てる力を高め発揮する選手たちの生き方に、多くのことを学ぶことができると思います。

## 記録的豪雨・長雨、そして

### コロナウイルス感染拡大

8月11日に降り始めた雨は、いつ止むともしれない記録的な豪雨・長雨となりました。全

国のいたるところで「1年間の総雨量の○%がこの○日で降りました。」とか「例年の8月雨量の○倍の雨量がこの三日間で降ったこととなります。」といった報道を見ました。私は、雨雲レーダーの映像を見ながら、一時は、昨年をはるかに上回る被害が全国的に出るのではないかと恐怖を感じました。結果として、そこまでの大災害とはなりませんでしたが、やはり被害は少なくありませんでした。被災された方々の心痛や生活上の困難に思いを巡らす捉えが必要です。そして、このような気象現象は、今後は毎年起こってもおかしくないという認識を持ったことでした。

また、コロナウイルスの感染状況は、拡大の一途にあります。切り札と言われたワクチンの接種が着々と進みながら感染状況が縮小しないというのは、どういうことなのか。ウイルスが変異していく中で増大していく感染力が、私たちの想像をはるかに超えていくのではないかとおぼれてなりません。

## 前期後半のスタート

そんな夏休みを終えて、前期後半がスタートしました。「まん延防止重点措置」が9月12日まで延長されたことにより、その真っ只中での授業開始となります。玉名市の措置として、その間は「午前中4時間授業、給食後下校」となりました。併せて、本校の対応として5年生の「集団宿泊教室」を延期せざるを得なくなりました。今後も様々な判断を迫られることになると思います。学校と家庭とが一体となって、この難局を乗り切りたいと思います。

最後に、一つお知らせです。7月までお世話になっていた養護の内田妙先生が、ご家庭の都合等で、ご退職されることになりました。どんな業務にもいつも丁寧にあたっていただきました。残念ではありますが、やむを得ません。内田先生の今後のご健康とご多幸をお祈りします。

そして、内田先生に代わる先生を新しい仲間として迎えることができ、8月24日に着任されました。上田千尋先生です。よろしくお祈りします。



この度、前期後半から伊倉小学校に養護助教諭としてお世話になることになりました、上田千尋です。3月末まで長洲小学校に勤務しておりました。早く子どもたちの顔と名前を覚えて、心と体の健康管理に努めていきたいと思っております。よろしくお祈りします。

